



教授就任のご挨拶

令和5年4月1日付

医学部病理診断学講座 教授 柳川直樹

圭陵会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。令和5年4月1日付けで、岩手医科大学医学部病理診断学講座教授を拝命いたしました、柳川直樹（やながわなおき）と申します。

私は平成9年に山形大学医学部を卒業後、同学部の外科学第二講座(心臓血管・呼吸器・小児外科学分野)に入局して臨床研修を開始しました。その後、鶴岡市立荘内病院、日本海総合病院で外科研修の後、平成12年に山形大学大学院医学系研究科に入学しました。当初は呼吸器外科医となるつもりであり、やはり外科医は腫瘍などの切除標本を見なければならないと思います、本山教授の主宰する山形大学医学部人体病理病態学教室(旧第二病理学)を専攻しました。在籍中は、たとえ大学院生であろうとも病理解剖の当番、病理組織標本の初見診断が duty でありまして、多くの病理解剖の執刀、数は少なかったですが様々な臓器の標本をみる事が出来たことは結果として現在の自分に繋がっております。研究においては肺癌の検体を用いて、その当時まだ黎明期であったメチル化について分子病理学的手法を用いて解析し、「喫煙と p16 遺伝子メチル化との関連」のタイトルで学位を修得いたしました。そして大学院在学中、病理学に対する興味が強くなり病理医への転向を決意しました。卒業後は診断病理の研鑽を積むべく、山形県立中央病院病理部で2年間勤務し、非常に多くの症例を経験しました。その後再び人体病理病態学教室に戻り、引き続き分子病理学的手法を用いて肺癌の分子生物学的特性について研究を行ってまいりました。平成21年からは2年間カナダの

Princess Margaret Hospital/Ontario Cancer Institute の Ming Tsao 先生のところに research fellow として留学し、肺癌の分子病理学的解析について網羅的解析を行うとともに、治療効果予測マーカーの同定などに携わることができ、現在の私にとって貴重な財産のひとつとなっております。

帰国後は、山形大学医学部の講座再編などにより、大学に戻ることなく山形県立中央病院病理部で診断病理を主として行っておりましたが、やはり研究をしたいと思う気持ちはずっと心の奥底に秘めていたところ、当講座の前任であります菅井有教授に声をかけて頂き、令和2年4月、准教授として赴任してまいりました。当時は新型肺炎流行の真っ只中でありまして、多くの行事が無くなってしまい他科の先生方と交流をする機会が残念ながらありませんでした。しかしながら、その分研究に時間を割くことが出来ました。こちらに赴任してからは肺癌における腫瘍微小環境について研究を行っております。腫瘍微小環境は各種腫瘍の発生・進展、治療抵抗性などと深く関わっております。特に治療抵抗性と関連してですが、今後はただ単に診断をするだけでは駄目で、その後の治療についてまで言及することが診断病理で求められるようになっていくことと思います。今後も引き続き研究を行って参ります。

最後に浅学非才の身ではありますが、本学および附属病院の発展のために最大限の努力をいたす所存であります。圭陵会の皆様にはより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

令和5年4月1日付

薬学部薬科学講座天然物化学分野 教授 田 浦 太 志

圭陵会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、令和5年4月1日付をもちまして、薬学部天然物化学分野教授ならびに薬用植物園園長を拝命いたしました。歴史ある本学の教授に就任し、大変光栄でありますとともに、その責務の重さに身の引き締まる思いです。諸先輩方を手本として、本学の発展のため、そして何より学生のために尽力したいと考えております。

私は平成6年に九州大学薬学部を卒業後、同大学院に進学し、さらに助手、助教としてキャリアの前半を過ごしました。九州大学では大麻研究が盛んな環境のもと、学生時代より大麻成分カンナビノイドの生合成研究に取り組み、医薬資源として注目度の高いカンナビノイドの基本骨格を構築する酵素の発見に関わりました。薬用植物は薬の起源であり、薬効成分の生合成酵素やその反応機構を解明する生合成研究は、薬の起源を現代科学の言葉で解き明かす科学的価値を持ちます。九州大学での貴重な経験は、私の研究活動の基盤を形成するものとなりました。次いで、平成25年に着任した富山大学薬学部では、和漢薬の教育研究が充実した環境のもと、全国有数の薬用植物園を活用した研究を行う機会に恵まれました。多種多様な生きた貴重植物と触れ合うなかで、「植物がなぜ薬効成分を生合成するのか」という生理学的な課題にも視野を広げることができ、研究のみならず教育面でも大きなプラ

スであったと考えています。加えて、薬用植物園園長として地域市民との交流や薬用植物の情報発信にも参画し、また全国的にもユニークな薬学部和漢薬コースの立ち上げに寄与するなど、数々の貴重な経験を得ることができました。

ご存知の通り、薬用植物は生薬資源として、また医薬品原料として現代医療において重要な役割を担っています。近年は多くの植物由来天然物について新型コロナウイルス阻害活性が検討されており、薬用植物は新たな疾患に立ち向かう医薬資源としても重要です。薬用植物、生薬および漢方薬などに知識と理解を持つことは医療人として必須であり、また人生を豊かにすることにもつながります。当該分野の教育を通じて、学生の未来に全力で貢献したいと考えています。また、天然物化学分野においては、薬効成分の生合成研究を継続するとともに、学生の皆さんの探究心や問題解決能力の向上のため貢献する所存です。私自身、学生時代に研究を楽しみ、研究室に育てられた経験がありますので、学生時代を振り返って楽しかったと思えるような時間と経験を、学生の皆さんと共有することが最大の目標と考えています。さらに、本学の薬用植物園は見学しやすい区画のなか、重要な薬用植物が充実しておりますので、オープンキャンパスや地域貢献等への活用についても種々検討したいと考えています。圭陵会の皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻のほど、どうかよろしくご厚意申し上げます。



教授就任のご挨拶

令和5年4月1日付

看護学部地域包括ケア講座 教授 岩 渕 光 子

圭陵会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、看護学部地域包括ケア講座教授を拝命いたしました。地域包括ケア講座には、地域看護学領域、精神看護学領域、老年看護学領域がございますが、その中でも地域看護学領域に関連する科目を中心に担当させていただいております。

岩手医科大学には令和元年に赴任し、今年で5年目となりました。医療系総合大学として、また120年を超える歴史ある大学の看護学部で奉職できることは、身に余る光栄でございます。地域看護学の発展のために誠心誠意務めさせていただきます。

私は平成5年に北里大学を卒業後、北里大学病院で看護師として1年間、平成6年からは岩手県の保健師として、岩手県大船渡保健所、岩手県盛岡保健所（現岩手県県央保健所）で勤務いたしました。保健所では、地域に出向き、NICUからの退院連絡票による乳児の家庭訪問、三歳児健康診査後の家庭訪問や保育所訪問、また結核の発生届を受理して病院訪問や家族等の健康診断等の個別支援を通して、多機関、多職種と連携しながら活動を進めてまいりました。また、精神保健福祉ボランティア養成講座により人と人をつなぎ、ボランティアグループを結成する等、地域全体へ広げる支援を行い、誰もが住みやすいまちづくりにつながる活動を経験させていただきました。

平成11年からは岩手県立大学に異動し看護基礎教

育（地域看護を担当）を20年間経験し、保健師経験を基に教育、社会貢献、研究を進めてまいりました。岩手県は医師、看護師、保健師等の地域偏在が課題となっており、地域医療を担う看護職を確保していく必要性を感じております。地域には、小児から高齢者までのあらゆる発達段階、また健康な方から緊急対応が必要な方、慢性期、看取りのあらゆる健康レベルの方々が暮らしておりますので、人と人をつなぐ横糸の役割が重要と考えております。看護職の活動の場も多様化しており、病院・診療所のほかに、訪問看護ステーション、介護・福祉施設、行政、産業など、拡がりをもせております。看護の担い手になる学生には、暮らしをイメージして生活の場である地域を理解し、生活を支える地域資源を活用して、地域で暮らす・療養する方々が安心して暮らし続けるための看護を創造してほしいと思っております。

私はこれまで、多くの方に支えていただきました。今までのつながりを活かし、これからの地域共生社会に向け、世代や分野を超えて人と人をつなぐ地域づくりを推進できるよう、新たな看護の役割を追究していきたいと考えております。今後とも、圭陵会の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。